

長畝ふるさと通信

【2012年11月号】

■ JA倉庫はお米の山～銭の山？

豊作に浮かれてばかりはいられません。せっかく獲れたお米も、売って「銭」に替えなければ百姓の生活は成り立ちません。JAに出荷していれば、すぐにでも販売代金が振り込まれてくるのですが、自分たちで売ってお米はそうはいきません。これから1年かけてこのお米の山を「銭」に替えるのです。約5,000袋のこの山が全て「銭」に変わるのはいつのことやら…



■ 大豆も豊作！



今年はお米に次いで大豆も豊作。夏の炎天下、かあちゃん達が毎日、汗だくで雑草取りに励んでくれたおかげです。ウーマンパワーのど根性に脱帽。今、外国から入る遺伝子組み換えの安い大豆を使ったお豆腐などが幅をきかせて出回っていますが、将来の子孫に及ぼす影響は計りしれません。少々お高くとも「国産大豆」を原料にした製品を食べましょう！

■ 宮城県登米市の「地域づくりシンポ」に参加しました。

11月17日、宮城県登米市の「農村自然再生と地域づくり」シンポジウムに参加してきました。東日本大震災の傷跡がまだ生々しく残っていましたが、地域の方々は震災復興と孫の代へ地域を引き継いでいくために、様々な活動をはじめていました。ご当地はシベリアから4000kmもの距離を飛来するマガンが降り立つ地域です。写真は蕪栗(かぶくり)沼の早朝「ねぐら立ち」と呼ばれ、何千羽ものマガンが一斉に飛び立つ光景です。まさに圧巻、言葉になりません。普段から白鳥やマガンの群れが頭上を飛んでいく光景は実に豊かな気持ちにさせてくれました。



■ 豊作記念「大収穫感謝祭」は盛大に！

11月24日は豊作を祝って、大収穫感謝祭を行いました。いつもまして、大勢の組合員や子供達に参加してくれました。今年はトキのヒナ誕生もあり、これからトキとの共生を考えるため、現在トキの野生復帰のために佐渡で働いている環境省自然保護官の方々にも参加していただき、記念講演を聴きながら、みんなで考える時間を持ちました。その中で「孫の代まで引き継ぐ地域のあり方」としてこれから3代90年後、「西暦2100年の未来に向けて今やれることをみんなでやろう」ということになり、「今やれることって？」を酒の肴に宴会が始まりました。



恒例の100人前豚汁やもちつき、かあちゃん達の手作り「ごっつおう(ご馳走)」はいつも増して急ピッチでみんなのお腹に消えていきました。お酒やビールも追加、追加、また追加、うれしい悲鳴です。お土産には地元で獲れた栗を一杯入れたお赤飯をふるまって、楽しいひとときはあっという間に過ぎました。……来年も豊作でありますように……



子供達も真剣に講演を聴きました？



自分の体より重そうな杵でもちつき



トキ米のおにぎりは具もありません



大きなサツマイモはほくほくの焼きいもに

■ 今年も早いものであと一ヶ月、暮れにはもち米と青豆と打ち豆をセットにしてお届けいたします。田舎の味をぜひご賞味下さい。